

# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 人物から見た上三川の歴史 多功朝定

多功城の城主として活躍をした多功氏は、下野宇都宮氏の一族として、宇都宮の南の要であったといっても過言ではありません。その所領は多功・築・成田・大領・児山の地であつたと言われています。その基礎を築いた初代多功城主の多功宗朝には、五人の子供がいたことがわかっています。長男は二代多功城主となつた家朝、次男は三代城主となつた朝継、そして三男の朝定は、分家して現在の下野市下古山の地に、児山城を築き、宇都宮防衛の南方陣営の一角を担つたのでした。

児山城が築かれた時代である、鎌倉時代の宇都宮氏は、緊張関係が続く鎌倉幕府との不測の事態に備えて、南方の守りを固める一方で、下野における支配を強化するために、宇都宮氏一族による支配を深化させる必要があつたのです。当時の宇都宮氏の支配地は河内

郡・塩谷郡・芳賀郡になります。郡の中で特に重要で、宇都宮氏にとつて存在基盤といえるのが河内郡でした。宇都宮氏の鎌倉幕府御家人としての地位固めをした、第五代当主の宇都宮頼綱には、多くの男子があり、嫡子の泰綱に河内郡の中央部から北部を、庶子の時綱・頼業・宗朝に南部を支配させたのです。横田氏が城主を務めた上三川城が掌握した地域を東上条というのに対し、多功氏の多功城が掌握した地域は、西上条と呼ばれました。

このような流れを見ると、河内郡南部における宇都宮氏支配体制は、十分なものになつたかと思われませんが、それでも初代の多功城主の多功宗朝は、更なる防衛の強化と、支配体制の強化を図る必要から、鎌倉時代後期(13世紀後半)に児山城を築き、三男の朝定に古山・大領・成田の支配を

任せ、多功城の一翼を担わせました。その後、朝定は姓を児山と変え、児山城主は代々、児山氏が継承していくこととなります。

その後の児山城は、歴史の表舞台に出てくることはあまりありませんでしたが、江戸時代に編纂された「関東古戦録」によると1558(永禄元)年の、長尾景虎(上杉謙信)による多功城攻めに際し、城主の児山兼朝が討ち死にし、廃城したと伝えられています。朝定から始まつた児山城の歴史は、築城から230年にわたつて多功城の片腕として歩んだともいえるのです。



桃山時代	室町時代										鎌倉時代					西暦	年号	できごと		
1597	1558	1549	1541	1536	1512	1467	1438	1392	1380	1336	1333	1292	1283	1274	1248	1221	1220	西暦	年号	できごと
慶長2	永禄元	天文18	天文10	天文5	永正9	応仁元	永享10	明德3	廉暦2	建武3	元弘3	正応5	弘安6	文永11	宝治2	承久3	承久2			
宇都宮氏改易。	児山城主児山兼朝討死。これにより児山城は廃城したという。	長尾景虎による多功城攻めに際し、	喜連川五月女坂の合戦。那須氏と宇都宮氏が戦い、宇都宮氏は当主尚綱が討たれるなど大敗。宇都宮氏の先陣に児山三郎兼朝の名が見られる。	宇都宮家当主宇都宮尚綱と壬生綱房、芳賀高経を児山城に追い詰め滅ぼす。	宇都宮家当主宇都宮興綱、芳賀高経と対立し自殺。	宇都宮錯乱。宇都宮氏内部で内乱が発生する。	永享の乱、幕府、鎌倉公方、足利持氏を討つ。	南北朝統一。	袁原の合戦。宇都宮氏大敗を喫する。	足利尊氏、室町幕府を設立する。	鎌倉幕府滅亡。	多功宗朝、死去。	このころ多功朝定、児山城に大通寺(のちの華蔵寺)を建立する。	文永の役。	多功城築城。	承久の乱。	多功宗朝、生まれる。			